

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402200		
法人名	有限会社 春陽会		
事業所名	グループホーム うららの里 うんぜん棟		
所在地	長崎県 南島原市 有家町 蒲河 415番地		
自己評価作成日	令和 4年 9月 2日	評価結果市町村受理日	令和4年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和 4年 9月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「陽気に 楽しく いきいきと！」をモットーに、グループホーム うららの里の利用者・家族・職員・周りの人たちが、「陽気に 楽しく いきいきと」日々を過ごすことができるためにはどうすればいいか、を常に考えています。
 ・利用者、家族の気持ちに向き合い、寄り添いながら支援できるように心掛けています。利用者、家族の意向に可能な限り柔軟に対応するようにしています。
 ・今はコロナ禍で、各種行事やイベントが中止となっていますが、地域との交流が大切だと考えています。地域からの求めがあった時には、可能な限り協力するようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの近隣には長閑な田園風景が広がり、且つ、医療機関や小中学校、商業施設なども近隣にある利便性の良い場所に立地している。ホームの中庭には手入れの行き届いた芝生があり、コロナ禍で外出自粛の中でも入居者が外気に触れ、ゆっくりと過ごせるスペースが確保されている。近隣の保育所、小中学生の職場体験の受け入れ、地域のお祭りなどへの参加等、地域との関係を築き交流されている。定期的に発行する「うららだより」や運営推進会議議事録は、入居者の状態やホームの状況を詳細に記載し、コロナ禍で面会することが難しい家族へ伝えることで安心感や楽しみに繋げている。職員は、入居者の尊厳を大切に入居者に寄り添った支援を行うことを心がけて日々のケアに努めている。キッチンからは調理の音や香りを楽しめる家庭的な空間が広がる家庭的であたたかなホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 うんぜん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「陽気に 楽しく いきいきと！」を合言葉に、5つの介護理念があり、その理念に沿った支援ができているか、職員会議などで話し合い、確認している。どのように支援すればよいか迷った時には、理念に立ち返って判断するようにしている。	ホームの設立当時に職員全員で考えた理念を掲げ、忙しい時ほど理念に立ち返ることを念頭に支援を行っている。理念をもとに5つの介護理念をあげ、職員一人ひとりが目標をもって日々の業務を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、地元の中学生の職場体験学習と高校生の介護職員初任者研修施設実習の受け入れ要請はありませんでした。高校生の介護福祉士養成過程介護実習とボランティアの受け入れをしました。なるべく地域の行事やイベントには積極的に参加するようにして交流し、地域とのつながりを大切にしている。	ホームとして自治会には加入していないが、管理者が同自治会員であり、地域の情報を入手している。コロナ禍以前は近隣の保育園児の訪問や中学生の職場体験、高校生の実習などを受け入れていた。地域行事のしめ縄作りなどに参加しており、地域との関わりを継続できるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、これまで積み上げてきた実践内容を活かして、地域の様々な研修、会合、行事に参加して、認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいた指導、助言は職員会議などで話し合い、積極的に活用している。運営推進会議の議事録をご家族に報告し、意見を聞いてサービス向上に役立てている。	コロナ禍にてホーム行事や催しを自粛しているが、運営推進会議のメンバーから行事を開催して欲しいとの意見が挙がるなど忌憚のない意見交換が行われている。運営推進会議議事録は毎回家族へ郵送し、入居者やホームの状況を詳細に伝えることで、家族からは議事録を楽しみにしているとの声が挙がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことがあったら、まず、市の担当者に聞くようにしている。事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、情報の共有を図っている。	コロナ禍にて行政担当者とは電話でのやり取りが主ではあるが、日頃より情報交換し、ホームの実情を伝えている。必要に応じて各種制度上の相談や質問を行い、最近では新しい加算の取得について問い合わせを行うなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回以上開催し、内容を報告をしている。高齢者の権利擁護や身体拘束等に関する研修会に参加したり、ホーム内研修会を開いて、身体拘束の適正化等の理解を深めている。緊急やむを得ない場合以外は、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関し、年に2回以上の研修の実施と、3か月に1回、全職員で話し合いを行い、身体拘束をしないケアの実践に努めている。業務が多忙な時に入居者への声掛けが気になることがあるが、そのような場合は職員が互いに注意し合いながらケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会やホーム内研修会、職員会議等で、高齢者虐待防止関連法について学び、理解を深めている。虐待防止に向けた取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加したり、ホーム内研修会を開いて、権利擁護に関する理解を深め、利用者の支援に役立てている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者・家族に安心して利用していただけるよう丁寧に説明している。特に利用料金や起こり得るリスク、重度化した場合や看取り介護に関する指針、医療連携体制の実施等については詳しく説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には電話や面会時等に意見、要望を聞くようにしている。なんでも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見、要望等は、職員会議や申し送りの時に話し合い、反映させている。	コロナ対策として入居者との面会を制限していたが、家族からの要望により、窓越しの面会をできるようにした。職員は、入居者との日常会話の中で意見や要望を把握し、また、家族から電話や面会時に意見や要望を伺いながら日々の業務に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議の時や日々の申し送り時などに、職員からいろいろな意見や提案を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、なるべく職員の意見や提案を反映するようにしている。	毎月の職員会議の際に意見交換を行い、必要に応じて職員の意見や提案を反映させている。日々の業務の中でも、その都度、管理者と相談ができる関係を築いている。現在、管理者と職員との定期的な個別面談は行っていないが、職員の意見を更に収集できるよう定期面談を検討している。職員の資格取得へのサポートも実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画書を作成し、事業所内外の研修会になるべく多くの職員が参加できるようにしている。また、研修報告書を作成し、全職員が閲覧できるようにして、職員の介護サービスの質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会や地域のホーム長会への参加、同業者へ電話するなどして、事業所外の人の意見や経験を聞いて、サービスの向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階で、本人の日頃の状態をこまめに聞き取り、なんでも話していただけるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は家族の思いに寄り添いながら、信頼関係が築けるように心がけている。可能な限り柔軟な対応をとるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況などを確認し、必要なことを理解して支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たず、安心して穏やかな生活ができるような言葉かけをして、共に暮らしをする者同士の関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしのできごとや気づきの情報の共有に努め、本人を支えるために家族と共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者、家族の意向に寄り添い、馴染みの人や場所との関係が途切れないように関係が継続できるように支援している。	コロナ禍以前は、盆や正月の時季に合わせて帰省支援や、馴染みの理髪店へ入居者を連れて行くなど関係継続の支援を行っていた。窓越しで友人との面会や、差し入れなどもあり、馴染みの関係が途切れないよう取り組んでいる。管理者はコロナ禍収束後には馴染みの人や場との交流を再開する意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性についての情報をすべての職員が共有できるようにしている。また心身の状態や気分、感情で日々変化するので、注意を払うようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してからも、継続的なつきあいができるように心掛けている。相談や要望等があるときには応えられるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉をかけ、言葉や表情などから希望、意向を把握している。意思疎通が困難な利用者には、本人の表情などから汲み取ったり、家族や関係者から情報を得て、本人の意向はどのようなものか理解するようにしている。	職員は入居者との会話の中で、入居者本人が興味のあること(好きな食べ物など)を話されたり、リラックスした状態で過ごしている際に思いや意向を伺うようにしている。収集した本人の情報は、申し送りノートに記入し、毎月の職員会議で話し合いながら共有し、意向に沿った支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時、自宅を訪問したり、本人や家族、関係者などから聞き取りをしている。入居してからも、これまでの暮らしについて聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で、できないことよりもできることに注目し、その人の現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め、職員全員で意見交換やモニタリングなどを行って、現状に即した介護計画になるように努めている。	職員は入居者毎に担当制を採用しており、毎月行うケア会議を通じて担当者を中心としながらも全職員が意見を出し合い、入居者の現状に即した介護計画の作成に努めている。職員はすべての入居者の目標を把握した上で、入居者に寄り添ったケアの実践に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に、食事量・排泄などの身体の状況や、日々の暮らしの様子、本人の言葉を記録している。いつでもすべての職員が確認できるようにしている。勤務開始時にはまず、記録を確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに応じて、必要な支援は柔軟に、多機能的に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、本人と地域資源とのさまざまな接点を見出し、本人の力を発揮できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医療機関での医療を受けられるよう家族と協力し、通院援助を行ったり、往診に来てもらったりしている。	ホームは入居前のかかりつけ医を継続することが可能で、医療機関への受診には職員が同行し、その都度、受診結果を家族へ伝えている。2週間に1回の訪問診療や、必要時には往診にも対応できるよう医療機関と連携し、入居者及び家族の安心に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に准看護師が2名いて、常に本人の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、訪問看護事業所と医療連携業務委託契約を結んでいて、月に4回の看護師の訪問の際に、利用者の状態を伝えて、医療との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院によるダメージを極力防ぐために、医師と話をする機会をもち、事業所内での対応可能な段階で、なるべく早く退院できるように病院関係者と情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した時、終末期の対応指針を定め、家族・医師・職員を交えて話し合いをして、看取り介護についての同意を得ている。また、状態の変化があるごとに家族の気持ちの変化や本人の思いなどを考慮しながら支援に取り組んでいる。	ホームは看取り支援を行う方針としており、指針やマニュアルを整備して全職員に周知している。協力医療機関と連携を図り、入居者や家族のほか、職員の精神的負担の軽減に繋げている。看取り後の職員の精神的フォロー体制も整えている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が開催している自衛消防隊研修や普通救命講習会に参加したり、ホーム内研修会等により、すべての職員が利用者の急変や事故発生時に適切に対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災や地震、水害等の災害を想定した消火訓練、通報訓練、避難訓練を毎月行い、全職員が、災害時の対応ができるようにしている。また、非常時には、お互いに協力し合うように近隣住民や近隣施設にお願いしている。	ホームでは避難訓練を毎月行い、全職員へ防災に対する意識づけを行っている。地域住民や、医療機関等との繋がりも強く、有事の際には互いに協力し合う関係を構築している。	避難先でスムーズに入居者情報を確認し提供できるよう、緊急時に持ち出す入居者情報一覧を更に充実させることが望ましい。また、有事の際の職員の役割分担について、あらためて職員へ周知を図り、迅速な行動ができるよう取り組むことに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や申し送りの時に、日々の関わりの中で、利用者の誇りやプライドを損ねる言葉かけや対応をしてないか確認している。	職員は排泄誘導時の声掛けや、失禁対応などの際は、他の入居者が気づかないよう、本人の耳元で声掛けし、羞恥心が損なわれないよう配慮をしている。居室に設置しているポータブルトイレは、使用しない場合は目隠しをするなど配慮している。	職員は入居者への言葉使いに気を付けながら支援している。今後、接遇マナーに関する研修にも参加し、更なるスキルアップの向上繋げ、より良いケアの実践に期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるようなことはせず、複数の選択肢を提案して、本人が自己決定できる場面を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはもっているが、体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみをしてもらい、おしゃれを楽しめるよう取り組んでいる。希望に合わせたヘアカットを職員がしたり、馴染みの美容室への外出支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事ができるよう雰囲気作りを大切にしている。ホーム敷地内の家庭菜園で作った野菜を食材として使ったり、利用者にじゃがいもの皮むきやごぼうの皮そぎなど料理の下ごしらえの手伝いをしてもらっている。	ホームの畑で採れた野菜を食材として使用している。職員は食材の下ごしらえを入居者と一緒に行っている。季節に合わせ、正月のおせち料理などの行事食や、誕生日にはケーキを作るなど、季節やイベントに合わせた食事を提供して入居者が楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況を毎食、介護記録に記録し、職員が情報を共有している。一人ひとりの状態や力、習慣に応じて、十分な食事がとれるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の能力に応じて、歯磨きの声掛けや、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間や習慣を把握し、トイレ誘導をすることで、トイレでの排泄を促している。	職員は排泄チェック表を活用して、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行っている。紙おむつやリハビリパンツなどの排泄ケア用品の選定は入居者の状態に合わせて、その都度検討しながらトイレでの排泄を促し、排泄の自立に向け取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食事、排泄、日常生活の状態などを記録して、個々に応じた排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の入浴の希望やタイミングに合わせて入浴していただくようにしている。ほとんどの利用者は、2日に1回は入浴をしてもらっている。ゆず湯やしょうぶ湯にしたり、安心して入浴していただけるよう複数の職員で入浴介助するなど工夫をしている。	原則として1週間に2～3回の入浴であるが、本人の希望に応じて入浴の回数を増やすことも可能である。同性介助にも対応できる態勢を整えている。往診に対応できる皮膚科の協力医療機関と連携し、医師より指示や助言を得るなど、皮膚疾患のある入居者も安心して入浴ができるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望などを考慮して、ゆっくりと休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や容量が変更されたり、状態に変化がみられるときは、いつもより詳細な記録をとるようにし、看護師や医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むき、新聞折り、洗濯物たたみ、編み物など得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえようお手伝いをお願いしたり、役割をもっていただいている。やってもらったら、その都度、感謝の言葉をかけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、外出する機会は減っているが、必要に応じて、一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせた外出支援をしている。天気がいい日には、短時間でも芝生のある中庭に出て外気浴を楽しまれるようにしている。	コロナ禍により外出を自粛しているが、ホームの中庭には芝生があり、入居者が外気浴をするなど気分転換を図っている。車から降りないようにして花見に出かけたり、病院受診の帰りにはドライブしながら外の光景を見もらうなど、外出自粛の中、閉じこもらないように工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるよう支援している。家族の希望により、少額のお金を入れた財布を本人で管理している利用者もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状や暑中お見舞いのハガキを出す支援を行っている。利用者の希望に応じて電話をかけた手紙を送る支援をしている。利用者本人用の携帯電話を持参されている利用者もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時の季節にあった手作りポスターを張ったり、ゆず湯、しょうぶ湯、クリスマスイルミネーション、正月飾りなどをして季節を感じて、居心地よく過ごせるようにしている。	毎日、職員が掃除機掛けとモップ掛けを行い、清潔を保っている。職員は入居者と一緒に作品を作って壁面に飾りつけを行うなど、季節感のある共用空間づくりを行っている。キッチンで調理する様子や、音、香りを楽しめる家庭的な共用空間ができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに椅子やソファを設置し、絵画やお花などを飾って、心地よく過ごせるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、好みのものを持ってきていただくようにしている。写真立てや使い慣れた日用品、テレビ、ラジオ、冷蔵庫などを持って来られている。	居室は職員が毎日掃除機掛けとモップ掛けを行い、清潔を保っている。居室にはタンスや冷蔵庫など本人の馴染みの物が持ち込まれ、職員は入居者の身体状況を把握した上で家族とも相談しながら配置し、居心地の良く暮らせるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって何がわかりにくいのか、どうしたら本人の力でやっていただけるかを把握し、状況に合わせて安全に生活できるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402200		
法人名	有限会社 春陽会		
事業所名	グループホーム うららの里 ありあけ棟		
所在地	長崎県 南島原市 有家町 蒲河 415番地		
自己評価作成日	令和 4年 9月 2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和 4年 9月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「陽気に 楽しく いきいきと！」をモットーに、グループホーム うららの里の利用者・家族・職員・周りの人たちが、「陽気に 楽しく いきいきと」日々を過ごすことができるためにはどうすればいいか、を常に考えています。
 ・利用者、家族の気持ちに向き合い、寄り添いながら支援できるように心掛けています。利用者、家族の意向に可能な限り柔軟に対応するようにしています。
 ・今はコロナ禍で、各種行事やイベントが中止となっていますが、地域との交流が大切だと考えています。地域からの求めがあった時には、可能な限り協力するようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 ありあけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「陽気に 楽しく いきいきと！」を合言葉に、5つの介護理念があり、その理念に沿った支援ができていないか、職員会議などで話し合い、確認している。どのように支援すればよいか迷った時には、理念に立ち返って判断するようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、地元の中学生の職場体験学習と高校生の介護職員初任者研修施設実習の受け入れ要請はありませんでした。高校生の介護福祉士養成過程介護実習とボランティアの受け入れをしました。なるべく地域の行事やイベントには積極的に参加するようにして交流し、地域とのつながりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、これまで積み上げてきた実践内容を活かして、地域の様々な研修、会合、行事に参加して、認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいた指導、助言は職員会議などで話し合い、積極的に活用している。運営推進会議の議事録をご家族に報告し、意見を聞いてサービス向上に役立てている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことがあったら、まず、市の担当者に聞くようにしている。事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回以上開催し、内容を報告をしている。高齢者の権利擁護や身体拘束等に関する研修会に参加したり、ホーム内研修会を開いて、身体拘束の適正化等の理解を深めている。緊急やむを得ない場合以外は、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会やホーム内研修会、職員会議等で、高齢者虐待防止関連法について学び、理解を深めている。虐待防止に向けた取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加したり、ホーム内研修会を開いて、権利擁護に関する理解を深め、利用者の支援に役立てている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者・家族に安心して利用していただけるよう丁寧に説明している。特に利用料金や起こり得るリスク、重度化した場合や看取り介護に関する指針、医療連携体制の実施等については詳しく説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には電話や面会時等に意見、要望を聞くようにしている。なんでも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見、要望等は、職員会議や申し送りの時に話し合い、反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議の時や日々の申し送り時などに、職員からいろいろな意見や提案を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、なるべく職員の意見や提案を反映するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画書を作成し、事業所内外の研修会になるべく多くの職員が参加できるようにしている。また、研修報告書を作成し、全職員が閲覧できるようにして、職員の介護サービスの質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会や地域のホーム長会への参加、同業者へ電話するなどして、事業所外の人の意見や経験を聞いて、サービスの向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階で、本人の日頃の状態をこまめに聞き取り、なんでも話していただけるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は家族の思いに寄り添いながら、信頼関係が築けるように心がけている。可能な限り柔軟な対応をとるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況などを確認し、必要なことを理解して支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たず、安心して穏やかな生活ができるような言葉かけをして、共に暮らしをする者同士の関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしのできごとや気づきの情報の共有に努め、本人を支えるために家族と共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者、家族の意向に寄り添い、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性についての情報をすべての職員が共有できるようにしている。また心身の状態や気分、感情で日々変化するので、注意を払うようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してからも、継続的なつきあいができるように心掛けている。相談や要望等があるときには応えられるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉をかけ、言葉や表情などから希望、意向を把握している。意思疎通が困難な利用者には、家族や関係者から情報を得て、本人の意向はどのようなものか理解するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時、自宅を訪問したり、本人や家族、関係者などから聞き取りをしている。入居してからも、これまでの暮らしについて聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で、できないことよりもできることに注目し、その人の現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め、職員全員で意見交換やモニタリングなどを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に、食事量・排泄などの身体の状況や、日々の暮らしの様子、本人の言葉を記録している。いつでもすべての職員が確認できるようにしている。勤務開始前に記録を確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに応じて、必要な支援は柔軟に、多機能的に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、本人と地域資源とのさまざまな接点を見出し、本人の力を発揮できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医療機関での医療を受けられるよう家族と協力し、通院援助を行ったり、往診に来てもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に准看護師が2名いて、常に本人の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、訪問看護事業所と医療連携業務委託契約を結んでいて、月に4回の看護師の訪問の際に、利用者の状態を伝えて、医療との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院によるダメージを極力防ぐために、医師と話す機会をもち、事業所内での対応可能な段階で、なるべく早く退院できるように病院関係者と情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した時、終末期の対応指針を定め、家族・医師・職員を交えて話し合いをして、看取り介護についての同意を得ている。また、状態の変化があるごとに家族の気持ちの変化や本人の思いなどを考慮しながら支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が開催している自衛消防隊研修や普通救命講習会に参加したり、ホーム内研修会等により、すべての職員が利用者の急変や事故発生時に適切に対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災や地震、水害等の災害を想定した消火訓練、通報訓練、避難訓練を毎月行い、全職員が、災害時の対応ができるようにしている。また、非常時にはお互いに協力し合うように近隣住民や施設にお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や申し送りの時に、日々の関わりの中で、利用者の誇りやプライドを損ねる言葉かけや対応をしてないか確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるようなことはせず、複数の選択肢を提案して、本人が自己決定できる場面を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはもっているが、体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみをしてもらい、おしゃれを楽しめるよう取り組んでいる。希望に合わせたヘアカットを職員がしたり、馴染みの美容室への外出支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事ができるよう雰囲気作りを大切にしている。ホーム敷地内の家庭菜園で作った野菜を食材として使ったり、利用者にはじゃがいもの皮むきなどを手伝ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況を毎食、介護記録に記録し、職員が情報を共有している。一人ひとりの状態や力、習慣に応じて、十分な食事がとれるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の能力に応じて、歯磨きの声掛けや、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間や習慣を把握し、トイレ誘導をすることで、トイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食事、排泄、日常生活の状態などを記録して、個々に応じた排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の入浴の希望やタイミングに合わせて入浴していただくようにしている。また、ゆず湯やしょうぶ湯にしたり、安心して入浴していただけるよう複数の職員で入浴介助するなど工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望などを考慮して、ゆっくりと休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や容量が変更されたり、状態に変化がみられるときは、いつもより詳細な記録をとるようにし、看護師や医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むき、新聞折り、洗濯物たたみ、編み物など得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえようお手伝いをお願いしたり、役割をもっていただいている。やってもらったら、その都度、感謝の言葉をかけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、外出する機会は減っているが、必要に応じて、一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせた外出支援をしている。天気がいい日には、短時間でも中庭に出るようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるよう支援している。家族の希望により、少額のお金を入れた財布を本人で管理している利用者もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状や暑中お見舞いのハガキを出す支援を行っている。利用者の希望に応じて電話をかけた手紙を送る支援をしている。利用者本人用の携帯電話を持参されている利用者もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時の季節にあった手作りポスターを張ったり、ゆず湯、しょうぶ湯、クリスマスイルミネーション、正月飾りなどをして季節を感じて、居心地よく過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに椅子やソファを設置し、絵画やお花などを飾って、心地よく過ごせるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、好みのものを持ってきていただくようにしている。写真立てや使い慣れた日用品、テレビ、ラジオなどを持って来られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって何がわかりにくいのか、どうしたら本人の力でやっていただけるかを把握し、状況に合わせて安全に生活できるようにしている。		